

ヤマグワ (学名: *Morus australis*)

【クワ科クワ属】



▲ 果実は赤から濃紫に熟す



▲ 1個体の中にも複数の形状の葉が見られる

クワの果実は6月～7月にかけて濃紫色に熟します。果実には甘味があり、只見では「くわご」や「どどみ」と呼ばれ昔から食べられてきました。学校帰りに枝からちぎって食べ、舌を紫色に汚して親に叱られた経験をお持ちの方もいるかもしれません。

ヤマグワは北海道から九州の丘陵地や低い山地に分布する落葉亜高木で、主に林縁や林道などの明るい環境に生育します。葉は互生につき、長さが6～14cmの卵形で縁に鋸歯を持ち、表面はザラザラしています。葉の形状は様々で、切れ込みのないものから5裂に分かれるものまであります。また、果実は人だけでなく、ツキノワグマなどの哺乳類や鳥類にも利用されています。冬の積雪期には、冬芽や樹皮がニホンザルの主要な餌としても利用されています。養蚕が盛んなころには、カノ（焼畑）の跡地を桑畑として利用し、カイコ（蚕）の餌としてその葉を供給していた事例もあります。昭和の中頃まで、養蚕は只見の主要産業でした。民具として多く残るクワカゴ、クワザルや繭をつくらせるマブシ（蔴）などにその様子を見ることができます。

ヤマグワは動物や人間と深い関係性のある（あった）樹木です。濃紫色に熟した果実を食べる時に、利用する動物や養蚕などの産業的な背景を考えるとより一層、くわごを味わえると思います。

講演会

「河野昭一先生企画展」開催記念講演会「只見のブナ林は世界の宝」

日 時：6月30日(日) 13:00～15:00 ※入場無料

会 場：季の郷湯ら里コンベンションホール「ゆきつばき」

講 演：植物学者・河野昭一先生がブナ林に残した足跡

講 師：北村系子氏（森林総合研究所）

※講演後、座談会を開催します

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

自然観察会

ブナ二次林のこれからを考えるー深沢集落 余名沢ブナ林

日 時：6月30日(日) 9:00～11:00

集 合：季の郷湯ら里 駐車場 (9:00)

持ち物：飲み物、雨具、歩きやすい靴

参加費：高校生以上500円、小中学生400円

お申込み・お問い合わせはブナセンターまで ☎0241-72-8355